

奈 良 大 学
総合型選抜（ＡＯ入試）第１回
各学科の適性確認課題

奈良大学入学センター

国文学科 課題

課題内容

奈良大学文学部国文学科の紹介サイトで公開される模擬授業動画①～③を閲覧し、その中から1つ選び、授業内容の要約と、あなたがその授業から学んだことを、レポートとして作成してください。

奈良大学文学部国文学科の紹介サイト <https://www.nara-u.ac.jp/faculty/jpn/>



模擬授業動画①「日本語の歴史」



模擬授業動画②「近代小説論」



模擬授業動画③「神話伝承論」



課題の作成要件

- ① パソコンで入力し、A 4 サイズで印刷すること。
- ② 自分で考えたタイトルをつけ、氏名を書くこと。
- ③ 最初にどの模擬授業動画を要約するかを書くこと。
- ④ 授業内容の要約は **400 字程度**、その授業から学んだことは **1,600 字程度** で書くこと。
- ⑤ 1 ページあたり **40 字×20 行** で設定すること。
- ⑥ 文字の大きさは **10.5 ポイント** とする (Word の標準的な大きさ)。
- ⑦ 末尾に総字数を記入すること。
- ⑧ ホッチキスで綴じて提出すること。

※今回の課題は形式面も重視していますので、上記の作成要件をしっかりと守るようにしてください。

史学科 課題

課題内容（発表資料）：自分で作成した何らかの成果（論文・年表・地図などの作品）を提出。

（国・地域・時代を問わず、自分で設定した歴史上のテーマ）

※「発表資料（課題）」の記入用紙は、各自で用意してください。様式・分量等に指定はありません。

なお、「発表資料（課題）」に加えて、「発表内容（発表予定のタイトルとその内容：800字程度）」の提出が必要になります。

※提出期間：8月19日（月）～9月2日（月）締切日必着

※9月14日（土）の適性確認日に、事前に提出した「発表資料（課題）」を基に、15分程度で発表し、教員との質疑応答を行います。

※参考資料として、以下の「**歴史達人入試体験記<世界史編>**」をご覧ください。

※総合型選抜（AO入試）第1回の詳細は、『入試ガイド2025』の6～7ページをご覧ください。

（『入試ガイド2025』のPDFファイル⇒<https://www.nara-u.ac.jp/admission/Guide2025.pdf>）



歴史達人入試
体験記
〈世界史編〉

高校の教科書に出てこない ヴィシーフランスを研究しました

ー歴史達人入試では、どのようなテーマでどのような成果を発表しましたか。

高校の教科書には出てこないのですが、1940年にフランス中部の町ヴィシーを首都に成立したフランスの政権、**ヴィシーフランス**をテーマに研究成果を発表しました。私の場合、オンラインでの発表でしたので、事前に作成した資料や年表を大学へ送り、それをもとに口頭で発表をおこないました。

ー研究テーマにたどりついたきっかけは何ですか。

もともと大学に入って現代ヨーロッパの歴史について学びたいと考えていたのですが、歴史達人入試のテーマを探しているなかで、**教科書に出てこないところ**にすごく**興味がわき**、取り組んでみようと思い立ちました。

ー研究成果をまとめるまでに、とくに心がけたことや苦心したことは何ですか。

教科書に出てこないため、関連する資料がすぐ見つからないことに苦労をしました。そのため、地元の大きな図書館で参考図書を探したり、また、国立国会図書館のデジタル情報などもみて、調べを進めていきました。おもに自分自身で調べを進めましたが、高校の先生方のアドバイスももらいました。

佐藤 真真さん 徳島県立つるぎ高校

ー大学では、どのような研究をしようと考えていますか。

ヴィシーフランスについて、もっと深く研究していきたいと考えています。そのため、現在は大学の授業でドイツ語を一所懸命学んでいます。

ー先輩として受験生へアドバイスをお願いします。

とにかく自分が興味をもてるテーマを見つけることが大事だと思います。そうすれば、調べていく作業自体は苦労ではありませんし、むしろ楽しいことだと気づいていくようになります。

佐藤さんの発表資料

地理学科 課題

次の写真（A～Hの8枚）から2枚を選択し、それらの写真から読み取れること、考えられることを800字程度でまとめよ。

なお、2枚を関連させて考察することも可とする。



A



B



C



D

＜次ページに続きます＞



E



F



G



H

文化財学科 課題

課題内容：発表資料として各自で工夫して作成したものを提出。

（関心のある文化財を一つ取り上げ、9月14日(土)の適性確認日に15分程度のプレゼンテーションをしていただきます。身近にあるもの、本で読んで知ったものなど、何でも構いません。各自で工夫して作成してください。）

※「発表資料（課題）」の記入用紙は、各自で用意してください。様式、分量等に指定はありません。

※提出期間：8月19日(月)～9月2日(月)締切日必着

※総合型選抜（AO入試）第1回の詳細は、『入試ガイド2025』の6～7ページをご覧ください。

（『入試ガイド2025』のPDFファイル⇒<https://www.nara-u.ac.jp/admission/Guide2025.pdf>）



その他の提出書類：

○表紙

○文化財学科で学びたいこと

大学入学後に文化財学科で学びたいことや対象などについて、具体的に記入。（400字程度）

○発表内容

発表資料として取り上げる文化財について、タイトルとその内容を記入。（400字程度）

心理学科 課題

次頁の 4 つの図は、10 歳から 15 歳を対象に、他者との関わり方について尋ねた結果である。

図 1 は家族・親族との関わり方について、「他の人には言えない本音を話せることがある」「何でも悩みを相談できる人がいる」「こまったときは助けてくれる」の 3 つについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の 4 段階で回答し、無回答を含めた割合を表したものである。

図 2 は地域の人との関わり方について、図 3 は学校で出会った友人との関わり方について、図 4 はインターネット上の人やグループとの関わり方について、それぞれ図 1 と同様に尋ねた割合を表したものである。

家族・親戚とは、家族や親戚のことである。学校で出会った友人とは、現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友達などである。地域の人とは、近所の人、塾や習い事での友だちなどである。インターネット上の人やグループとは、実際には会ったことがない、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループである。

問 1

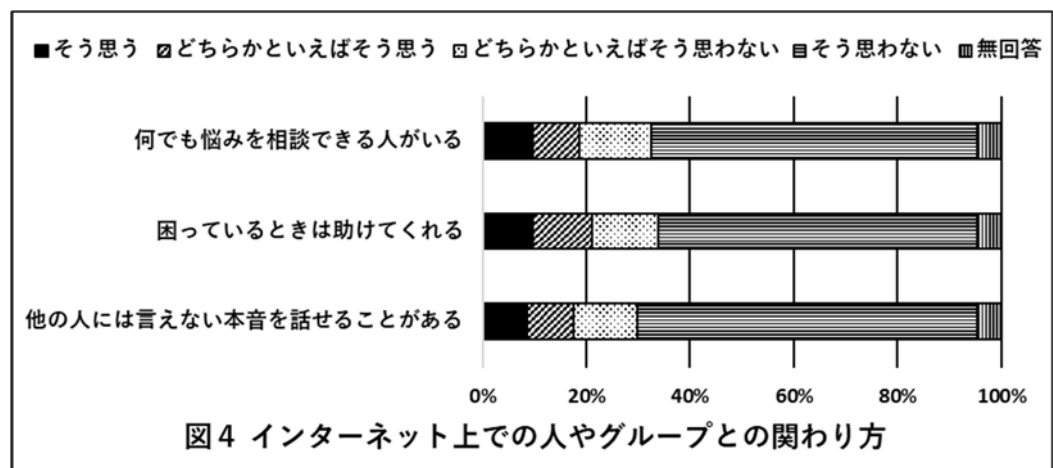
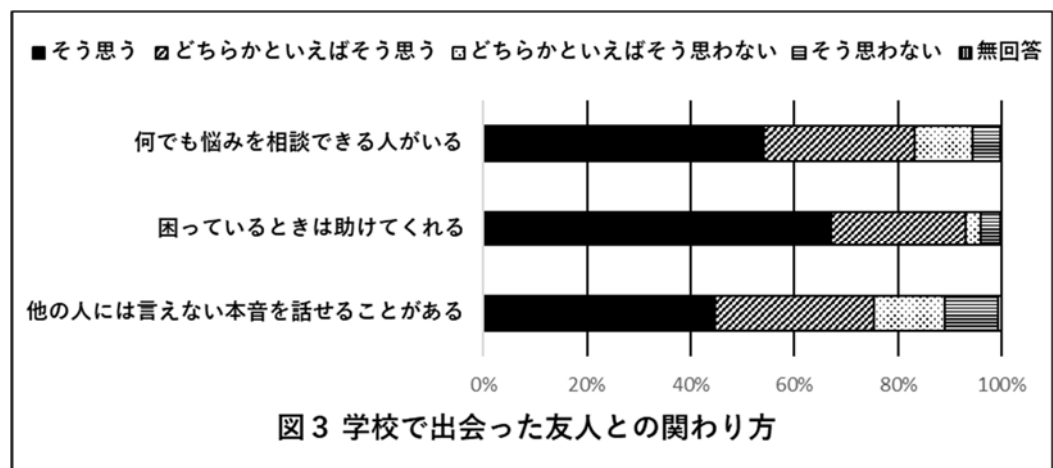
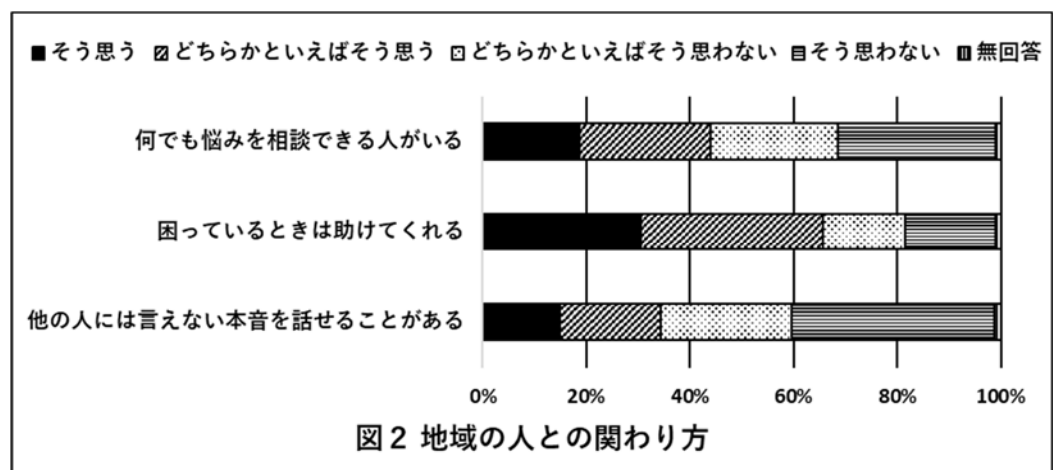
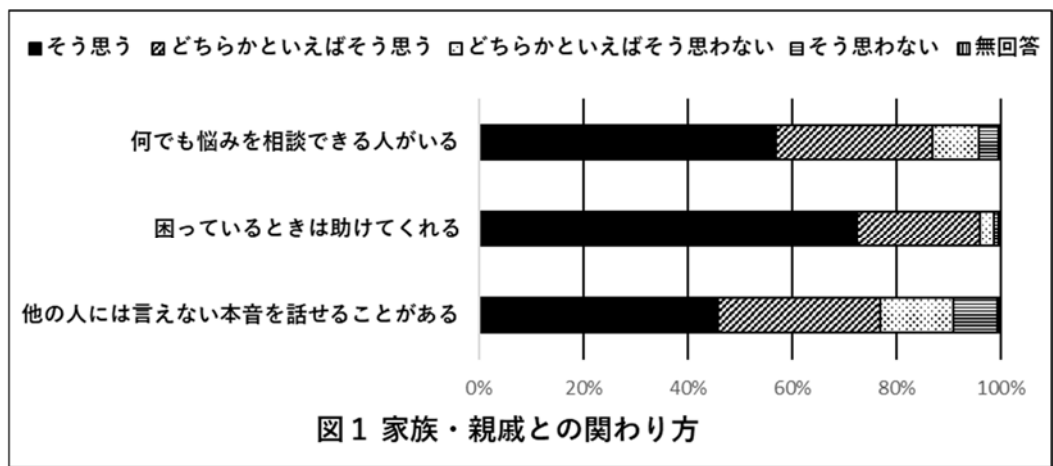
- (1) 図 1 と図 2 を比較して読み取れることを、250 字程度で説明しなさい。
- (2) 図 3 と図 4 を比較して読み取れることを、250 字程度で説明しなさい。

問 2

図 1 から図 4 の 4 つの図を踏まえて、他者との関わり方についてあなたが考えるところを 300 字程度で述べなさい。その際、必ず問 1 で読み取った内容を議論に含めること。

出典：「子供・若者総合調査」の実施に向けた調査研究(内閣府)令和 4 年 3 月発行をもとに作成

<次頁に続きます>



総合社会学科 課題

以下の「まち・ひと・しごと創生基本方針」を参考にしながら、自分の暮らしている市町村が現在どのような問題に直面しているのかを調べて 800 字程度で述べなさい。

<まち・ひと・しごと創生基本方針 2021>

地方創生は、出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的としている。

この目的に向かって政府一体となって取り組むため、2014 年 11 月、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）が制定され、内閣にまち・ひと・しごと創生本部が設置された。同年 12 月には、2060 年に 1 億人程度の人口を維持するなどの中長期的な展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「長期ビジョン」という。）を策定するとともに、まち・ひと・しごと創生法に基づき、5 か年の目標や施策の基本的方向等をまとめた、第 1 期（2015 年度から 2019 年度まで）の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定した。第 1 期「総合戦略」では、「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」、「地方への新しいひとの流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」及び「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」を 4 つの基本目標とし、取組を進めてきた。また、国のこうした枠組やまち・ひと・しごと創生法の趣旨を踏まえ、少子高齢化と人口減少という危機感を共有しながら、地方公共団体においても、「地方人口ビジョン」並びに「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、これらを合わせて「地方版総合戦略」という。）が策定された。この間、国においては、地方経済も含めた日本経済の成長戦略を始め、一億総活躍、働き方改革、人生 100 年時代等の取組を通じて、一人ひとりが自らのライフスタイルに応じて、潤いのある充実した人生を送るための環境づくりを積極的に進めてきた。地方においては、農業、製造業、観光等の地域産業の振興や大学・企業の連携によるイノベーションの創出・人材育成を始め、コンパクトシティ、小さな拠点等による安心して生活ができる地方をつくるための様々なプロジェクトが展開されてきた。こうした中で、若い世代が地方に住まい、起業をすることで、人生の新たな可能性を探る動きが芽生え、また、副業・兼業や、テレワークなどの多様な働き方や社会貢献活動などを通じて、継続して地域との関わりを持つ動きも見られる。第 2 期「総合戦略」においては、この 5 年間で進められてきた施策の検証を行い、優先順位も見極めながら、「継続は力なり」という姿勢を基本にし、地方創生の目指すべき将来や、2020 年度を初年度とする今後 5 か年の目標や施策の方向性等を策定するとともに、まち・ひと・しごと創生本部が司令塔となって、関係省庁との連携をより一層強化し、地方創生の動きを更に加速させていく。

（内閣官房・内閣府総合サイト「地方創生」から参考）